

＜A P 春季取り組み＞ 好循環・人への投資、全ての働く仲間と共に！

ご安全に！

私たちは、「好循環の実現！確かな未来へ」をスローガンに掲げ、第12回中央委員会（2/18）でA P 15春季取り組み方針を決議、翌19日に開催した中央戦術委員会において2月20日を集中要求提出日とすることを確認し、具体的な取り組みをスタートさせました。

以降、各戦術委員会、組合間の連携を図りながら、各組合の精力的な交渉と、それを支える本部・総合組合・県本部の経営への申し入れ行動を実施しています。

こうした取り組みによって、第1次集中回答指定日の3月18日には、総合重工・非鉄総合の10組合、また、業種別の15組合で、そして先週金曜日（3/20）に開催した第4回中央戦術員会の時点では、30組合（業種別20組合）で、年間一時金をはじめ、賃金改善、ワーク・ライフ・バランス等の具体回答が示されました。

これら回答は、組合員の熱い思いを背景とする懸命な交渉結果であり、且つまた、交渉を通じ労使が互いの共通認識としてきた「好循環の理念」、とりわけ、その基軸である「人への投資」を具現化させたものでもあると受け止めています。

こうした中で、回答受けの団体交渉において、経営の真摯な検討経過を評価する一方で、企業の発展のためにはグループ・関連に働く全ての労働者への波及、すなわち「人への投資」を求める場面もありました。また、個別年度として交渉の場を設置しない組合においても、この間、労使で協力企業等、同じ職域に働く仲間の処遇改善が企業・グループの発展に繋がるものとして議論してきた経緯をもとに、その姿勢と結果が業界新聞にも取り上げられています。

私たちは今次春季取り組みにおいて、経済の好循環を確かなものとするためには、正規・非正規に関わらず、働く者全ての労働条件の底上げに継続して取り組むことが必要不可欠であることを認識し合いました。そして、デフレ脱却と経済の好循環を実現するためには、業種別組合の労働条件の底上げ、格差改善を何としても前進させていかなければならないことを確認しました。足下、各組合は懸命な交渉を展開しており、総合組合を中心とする産別全体でその交渉を支えています。

労働組合の究極の目的は、組合員とその家族の幸せの追求です。その個々の組合が集まった産業別労働運動は、同じ産業・業種に働く仲間の幸せ追求に繋がらなければなりません。いよいよ、第2次集中回答指定日の3月26日を迎えます。

取り組みの基本は、「魅力ある労働条件づくり」と「産業・企業の競争力強化」の「好循環」の創造であり、そのための「人への投資」です。まずは、AP15春季取り組みの主要課題である業種別組合の労働条件の底上げ・格差改善を果たし、その個別労使の好循環を同じ職域で働く仲間の処遇改善に繋げ、「デフレ脱却」「経済の好循環」に繋げていかなければなりません。

AP15春季取り組み方針で確認した大きな志を忘れずに、私たちの「好循環＝生き活きとした職場づくり」の結果は、企業の将来発展はもとより、労使の社会的責任を果たしていくことにもつながることを共に訴え続けましょう。

ご安全に！

2015年3月23日
日本基幹産業労働組合連合会
事務局長 神田 健一